

# 琉球大学学術リポジトリ

## 普及事業の篤志指導者 ―資格と役割について―

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸, Koja, Zuiko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20928">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20928</a>

# 普及事業の篤志指導者

## ……資格と役割について……

普及事業は「自から助くるものを助く」という考え方に基づいて行なわれるので、篤志指導者の担う役割は重大にして尊いものである。

篤志指導者とは読んで字の如く無報酬のリーダーで、住みよい村落を築き上げるために普及員と協力して隣人を指導する人である。4Hクラブ、生改クラブ、農研クラブの各長又は指導者は皆篤志指導者である。篤志指導者は直接に普及員から知識や技術を学びとり、それを自分のクラブ員や隣人にデモンストレーション（演示）によって伝達する。それで、普及団体の指導、育成にとってこれら篤志指導者の存在は欠くことのできない条件である。

琉球でも普及事業の発足と同時に4Hクラブ、生改クラブ、農研クラブなどの自主的普及団体が誕生し、そのクラブ活動は農村生活の向上に大きな貢献をなしてきた。その効果はクラブリーダー（篤志指導者）の活躍に負う所が多い。特に生改クラブの活動はめざましいものである。

普及員がこのような農村のリーダーを見出し、自習又は隣人指導のためのやりがいのある任務を授けるという事は、最も大きな農村生活の必要性の一つを満たすということになる。また、それは農村人自からの指導性の向上ということにもつながるものである。

篤志指導者の仕事は殆んどが演示による実地指導、教養の高揚ということになるが、それは関係グループのみのものであってはならない。即ち、個人団体を問わず、手の届く限りグループ外のリーダーでもあるべ

きである。そこにも普及教育の意義がある。

### ◆ どんな人が適当か ◆

篤志指導者は普及員或いは関係グループメンバーによって選ばれるのが普通である。人選に際しては誰でもというわけにはいかず、やっぱり特定の資格をもった人、又はそれに近い人を見出すことが大切である。

その資格を要約すると：

- ① クラブ活動の分野に相応の経験を有する人。
- ② 部落又は隣人によく知られ、信頼されている人。
- ③ その仕事を他人にも自発的にやってみせる人。
- ④ 実践活動を自発的に記録する人。
- ⑤ その仕事について説明することができ、楽天的で仕事に熱中する人。
- ⑥ 人好きである人。

### ◆ どんな仕事をするか ◆

篤志指導者の仕事は種々ある。一口に言うと普及員や専門技術員と自分のグループ間の技術、情報の橋渡しである。

主な仕事を列記すると：

- ① 自から演示者となる。
- ② 普及員の直接指導をうけさせるためにグループメンバーを集める。
- ③ 産業共進会などの教育展示の計画に協力する。
- ④ 普及事業のための資金援助のかく得に協力する。
- ⑤ 地方新聞その他の出版物に普及ニュースを提供す。
- ⑥ 実践活動を記録し、普及レポートの作成に協力す。

クラブ活動においては、①メンバーを登録し、②クラブを組織し、③会合を開き、④指導を行い、⑤演習チームを育成し、⑥活動終了日をもち、⑦キャンピングを催し、⑧実践活動を報告するなどがある。

その他に周囲を見渡すと身近な問題がいくらかもある。例えば、区民を集めて先進地見学をする。識者を招いて農民講習会を開く。共同購入、販売に協力する。また、そのための金銭の徴収、納入もその人にとってできることである。

それでは外国の篤志指導者達はどんな事をしているかを知るのも興味深い事であるので、米国のそれを引例してみよう。米国はバーモント州の一普及員は篤志指導者の役割について次のように列記している。

- ① 普及計画の樹立に協力する。
- ② 普及会合の時と場所を設定する。
- ③ クラブ員や隣人に口頭や電話で会合を通知する。
- ④ 会合のポスターをつくり、はりつける。
- ⑤ 会場の準備とあとしまつをする。
- ⑥ 展示者を設置する。
- ⑦ 種子を配布する。
- ⑧ プロジェクト リーダーやその協力者を設ける。
- ⑨ クラブ員を勧誘する。
- ⑩ 共同購入、販売の世話をする。
- ⑪ いろいろな調査をする。
- ⑫ 講演者又は訪問者を送り迎えする。
- ⑬ 異った協会からメンバーを勧誘する。
- ⑭ 展示圃の収穫物の査定、調査に協力する。
- ⑮ 普及関係出版物の配布をする。

古い記録ではあるが、同じくカリフォルニア州のある普及員は年報の中で次のようにのべている。

ある年の州の24郡には124人の4H篤志指導者がいた。その内訳をみると、81人は農夫、20人は農村婦人11人は小学校の先生、4人は農林高校生又は前クラブ員、8人は銀行員又は職人であった。この124人の指導者たちは898人のクラブ員を勧誘し、その77%が立派なレポートを提出した……となっている。

また、アラバマ州の一生改善普及員は、篤志指導者は生活改善活動のあらゆる分野で重要な存在であったと次のような事をのべている。……篤志指導者なくしては我々は暗闇にいることも同然で、彼等の活動は我々の仕事の能率を倍加された。クラブ員によって選ばれたリーダーが最もよく活動し、またすべての関係者とイキもピッタリした。各リーダーとも平均して日に2日間クラブ活動に奉仕しているが、その他にクラブ員たちによる訪問がある。

以上、普及事業の篤志指導者たるものの資格と役割についてのべたが、これらの重大さに必要以上の負担を感じて消極的態度をとることは筆者の希む所ではない。なる程、このようにら列してみると仰々しい感じがして「自分にはとてもできない」と早合点してううかも知れないが、「案ずるよりうむは易し」である。又必ずしもそのルールにしたがうというわけではない。条件は地或により種々と異なるので、実情に応じた人選が必要である。住みよい村づくりはあなたの協力を待っています。 (古 謝 瑞 幸)